遮熱資材の長期被覆によるイチゴの一次腋花房の開花遅延抑制

～定植後５週間の被覆で一次腋花房の開花を早めることができる～

イチゴの促成栽培で、遮熱資材を定植後５週間被覆することで、一次腋花房の開花が１週間の被覆に比べて５日早まります。これは、近年多くなっている秋期の高温条件により引き起こされる一次腋花房の花芽分化の遅延を抑制する有効な手段として期待できます。

１．背景と目的

近年、イチゴ促成栽培で、腋花房の花芽分化時期にあたる 10 月中下旬の気温が高く、腋花房の開花が遅れる事例が散見されます。促成栽培では、定植時に活着促進を目的に遮光資材を被覆し、活着後の９月末頃に光合成を促進するため除去しますが、これを遮熱資材で代用することで長期被覆が可能となり、高温下でも生育を抑制せずに花芽分化の遅延抑制が期待できます。そこで、イチゴ‘古都華’で、定植後に遮熱資材を長期間被覆することによる一次腋花房の開花および収量について検討しました。

２．研究成果の概要

遮熱資材（「青天張Ｂタイプ」、（株）能任七、遮光率 22%）の被覆により、昼間の平均培地温度が 1.9℃低くなりました（表１）。

表１　遮熱資材の被覆によるハウス内環境の変化

被覆の有無	ハウス内日射量[z] (W/m^2)	培地温度[z] (℃)
有	268. 9	24. 2
無	422. 1	26. 1

[z] 測定：2024 年 10 月 10 日～ 16 日（8時～ 16 時）の平均値

遮熱資材を定植後５週間（10 月末まで）被覆することで、１週間の被覆に比べて生育に有意な差は見られませんでしたが（データ省略）、一次腋花房の開花が５日早まりました（表２）。

また、定植後５週間被覆しても、１週間の被覆に比べて頂果房および一次腋果房の合計収量に差は見られませんでした（図）。

表２　被覆期間と一次腋花房第１花開花日

定植後被覆期間[z]	開花株率70%到達日
1週間（9/26～10/3）	2025年 1月 1日
5週間（9/26～10/31）	2024年12月27日

[z] 定植および被覆開始日：2024 年9月 26 日

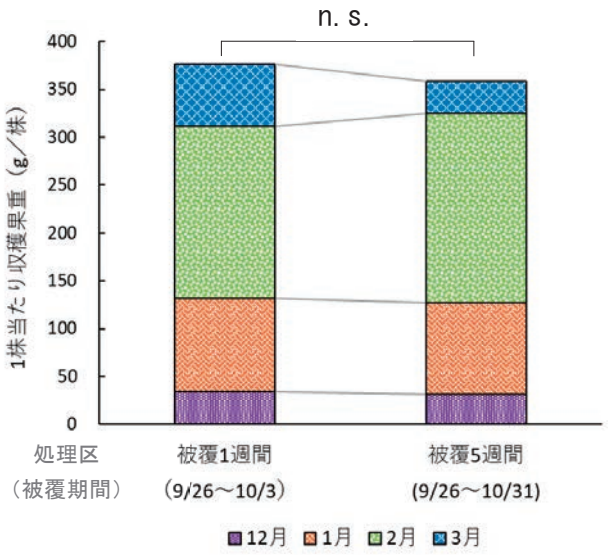

図　頂果房および一次腋果房の合計収量
調査期間：2024年12月16日～ 2025年３月17日
n.s.は有意差なしを示す

３．実用化に向けた対応

本技術は秋期高温条件下で効果が認められるものです。近年、夏から秋にかけての高温により、イチゴでは育苗期の生育不良や、花芽分化遅延などが問題となっていることから、これらに対応した技術について、引き続き検討していきたいと考えています。

（栽培・流通科　田中聡馬）